

刊夕日七十月三



定価 一圓五角
 廣告料 五號十二字 第一日 五圓
 日曜祭日の翌日 休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞社

ハルピン事變籠城記 (九)

ハルピン日本小學校長 白髮隆孫氏寄

◎壯嚴なる戦死者慰靈祭
 七日午後一時第二師團及びハルピン居留民會主催の下に、第二師團下の戦死者に對する慰靈祭は特務機關前(元日本人運動場)大廣場に於て軍隊を初め多數の居留民參列し極めて壯嚴に舉行された。
 野口齋主の祭詞捧讀次いで多門師團長及び關東軍司令官、民會長の弔詞捧讀、次いで讀經、焼香、各隊の代表同參あり極度の緊張裡に終始した。寒風に吹き流るる弔旗には墨痕あざやかに戦死者の偉勳を物語り、禮場にあふれた參列者は何れも緊張し切つた氣圍氣に包まれ、かくて感激の裡に午後三時頃式を閉じた。

◎全市を壓した皇軍の大觀兵式
 四十餘萬の人口を有する國際都市ハルピンを威壓した皇軍の大觀兵式は、八日午後一時中央寺院から中央停車場を中心として行はれた、新市街を擧げて人の海と化し感激の渦巻となつた此偉容ある皇軍は四十餘萬の市民をして完全に威壓せしめたといつても斷じて過言ではない、殊に祖國を距る數千里の先にあつて久しく露支人の權力に壓迫され無援孤立の窮地にあつた吾等四千の同胞の感激! 誇! 萬感交々いたつてたゞ感涙あるのみであつた。
 茲に露紙(グンバオ)に表はれた當日の觀兵式記事を和譯する。
 露紙と當日の觀兵式
 四十萬全市民の感激のうづ巻!
 木の上も屋根の上もペラ

高月會 三月例会 (二)
 蛙の子
 裏沼の匂ふいきれや蛙の子
 尾をふりて藻にかくれゆく蚪斗かな
 泡一つ出てすざりけりお玉かな
 病む妹の突やお玉の硝子瓶
 わめく子のざるの魚はおたまかな
 天 仙
 芝 草
 良 亭
 秀 峰
 鐘 樓

△二月八日
 哈爾濱に入城せる日本軍の大觀兵式は舉行された
 △此大觀兵式は最も壯大に舉行され期せずして驚くべき群衆は集つた。
 △之に參加せる日本軍の行進は朝から殆んど日没にいたるまで引きりなしに行はれたのであつた。
 △之を閱兵するものは第二師團長の多門中將その人である。

午前十時には、日本軍隊はハルピンの市中に行進を始めた。或は兵營に或は個人の住宅などに營舎せる日本軍隊、列を成し劉亮たるラツパ隊を先頭として、その所定の場所に向つて隊伍肅々進發す。
 當日の大觀兵式に列せるものは騎兵、歩兵、機關銃隊、タンク隊、裝甲自動車等々……前頭には各隊ともラツパ隊が立ち、之に續いて各隊の隊長が馬上豊かにそれから本隊が續く……すでに午後一時ともなれば觀衆は吾も吾もと押寄する間もなく東支俱樂部附近は全く立錐の餘地なき程の盛況……人の山人の海……如何に人が盛んだつたかは中央寺院のジペロソコ氏の高大なる大伽藍(元伊

生徒募集

大領事館の如き忽ちに及ぶ凡ての建物は宛も群してそのペランダはいふに鴉の如く人の山を形成した

卒業は一ケ年
 申込は四月八日迄
 入學は無試験

平南町

平産婆學校

看護婦學校
 校長 清野 キヨ
 電話三〇七番

旭硝子株式會社製品

板ガラス

硝子 食器
 硝子 壺
 其他 各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
 仙臺市榮町 電話五九七番

川井内科診療所

専門 内科一般
 宅診 内科は何でも診療致します
 往診 呼吸器病ばかりではありません
 平町南町六五
 醫學士 川井 重之
 女醫 川井 安子

プレゼントには……

御携帶用に
 ゼヒ時計を
 お獎め致します

常ニ商品の確實と流行の粋は時代のスタートを切つて顧客本位を生命として各位様の御来店をお待ちして居ります

御注文及び修理は
 電話一九五番へ
 鐵道省御用

金 光 堂
 平五(釜屋向ひ)
 電話一九五番

火事は油断から……

時局重大の秋です、絶對火事を起さぬセロン劑を塗る事に致しませ

東北セロン商會

セロン防火劑東北發賣元
 平町白銀町(電三九三)

藤田女學校生徒募集

一、本科 五十名
 二、裁縫專修科 百名
 三、師範科 三十名
 四、專攻科 二十名
 五、本科裁縫專修科二年補欠編入若干名

(新設)選科(晝間部) 五十名
 (夜間部) 三十名
 右希望者ハ至急願書提出ノコト
 詳細ハ本校宛學則請求セラルベシ
 昭和七年三月
 福島縣平町田町
 文部大臣 藤田女學校
 認 可
 電話 三二八番

磐女校卒業生

志望は家事最多

磐城高等女學校にては明十八日午前九時より第廿回卒業式を舉行する筈であるが卒業生百八十六名の志望別は

- 家事一三五、師範二部一九、共立女子専門校四、高等師範三、藥學校三、女子大學二、東京家政專門校二、赤十字看護婦二、本校講習會二、帝國女子醫專一、戸板裁縫一、日本女子醫專一、帝國專門校一、女子高等學院一、東洋英和一、自由學院一、圖書館司書養成所一、タイピスト學校一、青葉女學院一、聖路加女子一、體育專門校一、裁縫學校一、事務員一

- であつて卒業生氏名左記の如くである◎優等生、○四ヶ年皆勤者(五十音順)
- 赤塚豊子 赤津マサ
 - 秋山ヒサ 渥美花子 阿部榮子 阿部セキ 阿部チヨ 荒川サタ 荒川フミ 荒木ナオ 猪狩イハオ 猪狩智恵 伊澤喜美子 石川フミエ ○石橋ミヨシ 市原繁子 稻垣ムメオ 飯田ヨシ 宇佐美さく江 江尻澄江 江尻千代子 江連杉子 江名君子 遠藤トシエ 遠藤敏子 遠藤トシ子 岡田ミチ子 岡部スミ子 ○岡本テル子 小川ユキ子
 - 子 ○小谷ヨシ子 小野テル子 小野明子 ◎小野二三四 大越こと 大須賀キクエ 大高なつ 大田喜久子 大谷セツ 大塚サツ 大野ミサヲ 大原コト 大平壽美子 大平美代子 大平ヨネ 笠井ウタ 風間カツ 木雪子 ○香取綾子 金成トシ 金子フジ 神谷豊子 菊地さわ 木田トシエ 草野アイ子 ○草野キミ子 草野キミ 久保田せむ 小齊茂 小島令子 ○木幡トラ 小林愛子 小林タケ子 小林文子 小針梅 齊藤健子 齊藤鈴江 齊藤照代 齊藤ミチ子 酒井ミヨ 佐川久子 坂本サツエ 鷺トク 佐坂禮子 佐々木シゲ子 ○佐藤セイ 佐藤セツ子 佐藤タニ 佐藤ハルエ 佐藤ミズ子 志賀照代 志賀禮子 柴田静 篠山茂子 ○鹽末子 清水キヌ 志村元子 下山田チヨ 白石キミ子 白土キヨミ 白土光 菅波イエ 菅波登美子 菅波ゆき江 杉田智子 鈴木綾子 鈴木カツ ○鈴木しげ 鈴木セシ 鈴木徳子 鈴木姫子 鈴木ミツ子 鈴木芳枝 鈴木芳江 高木ミサオ 齋階コウ

- ウ 高橋マサ 高橋キン子 ○高柳富美子 ○瀧高子 ○千葉ユキ子 塚本チヨ 富岡愛子 富永ふみ ○豊田富久枝 長井ウメヨ ○中手静枝 ○中野富子 中野幸村愛 ◎直井キヨ 新妻ツネ 新妻尚子 新妻幸子 布川トヨ ○沼田貞子 沼田紀 ○根本カツ 根本スミ 根本トシ子 野崎セイ 羽岡はじめ ○芳賀サクイ 芳賀サクヨ 芳賀トキ 萩野谷ハナ子 萩原敏子 箱崎澄江 橋本ヒロシ ○長谷川喜美 端山サト 羽山ハルヨ 端山文子 榛澤操 比佐清 比佐正子 比佐ユキ 吉川ゆき子 星野千代子 ○松崎ヒテ 松井はる 松田文子 松本ツキエ 三浦政子 ○峰口チヨ 宮内トキ 三輪カヲル 村山みつ 柳内マス 山崎キヌ 山崎末代 ◎山崎チエ 山名酒子 湯山美佐枝 吉田イツ ○吉田キヌ 吉田スミ子 ○吉田タツ子 吉田千鶴 吉田信子 吉田芳枝 吉野カ子 渡邊文 ○渡邊カ子 渡邊キミ 渡邊貴代枝 渡部スガ 渡邊タミ 渡邊チトセ 渡邊トメ ◎渡邊房江 渡邊ミツ綿 引壽子 藁 谷 叶

平町人事

△播磨小路二四 當時横濱市保土ヶ谷 岩間下町大里金丸氏 女節子

謝類焼御見舞

- 一の井
- ハシモトヤ糸店
- 高野分店
- 吉田屋小間物店
- 根本時計店
- 金子洋服店
- 石川牛肉店
- 酒喜庵

謝近火御見舞

今曉近火の際は早速御駈付御見舞被下以御蔭様類焼を免れ候段御厚配の賜と仕熱謝候早速拜趨御禮可申上の處混雑中に付き乍略儀不取敢以紙上御禮申上度如斯御座候

三月十七日 平町田町 (イロハ順)

- 井坂醫院
- 海老屋商店
- いづみや玩具店

- 常磐銀行平支店
- 大崎洋服店
- 大塚運動具店
- 大床石崎幸一
- オリエント美容院
- 高久病院
- 玉屋洋品店
- レストラン・サロン
- 中島寫眞館
- 福島屋靴店
- 安齊外科醫院
- 三井分店
- 松月堂 金子重次
- 寫眞館・サクラ

平町目抜き通りの

今朝十戸焼く

平銀座の稱ある田町の中心

損害十數萬圓

今曉三時十五分頃平町田町一の井料理店より發火し瞬く間に同町第一の牛肉店たる三層樓の石川亭に燃え移つた爲め人家櫛比の場所柄として火は悉ち四方に燃え廣がり一面の火の海と化した。が附近には狹斜の巷を控え平銀座の稱ある目抜き通りにて混亂名状すべからざる修羅場を現出し平消防組始め附近消防組必死の努力に依つて午前四時半漸く鎮火したが全焼六棟九戸、半焼一棟一戸を算し損害十數萬圓に及ぶと見られて居る。

類焼氏名

田町火災の全焼者及び半焼者氏名左記の如くである

- ▽全焼 ハシモトヤ米店 眞根井誠 小間物玩具吉田トヨ 時計商根本義一 洋服商金子浩藏 石川亭 石川トキ 酒喜庵後崎松太郎 一の井箕輪爲吉 春の家高橋スイ 電機自轉車高野卯之吉
- ▽半焼 林家野崎滿藏

人心恟々

失火の原因に就いては種々の取沙汰あつて未だ判明せず目下平署にて火元と目ざれて居る一の井主人其他参考人を召喚、種々取調中であるが平町は昨今頻々たる火災に人心恟々たるものがある。

共同購入に

異論百出

自動車業者の意見一致せず 結局委員附託に

既報自動車協會平支部總會は昨十五日平署會議室に開かれガソリンの共同購入に就き協議を遂げたが部員中には、共同購入となれば従來油店との取引上未拂の者もあり料金即納に困難を感じるのみならず専門の係員が必要となるので相當の費用を要する爲め共同購入に反對する者もあり意見の一致を見る事が出来ず結局左記の委員を選任し来る廿日委員會を開いて決定する事となつた

(平)松崎、澤、山崎、三井、野崎

(湯本内郷)鈴木、永岡、薄波

(小名濱)小濱、小野、馬目

(江名)瀧口、吉田

消防表彰

人選

石城郡豊間村消防組では十五日午後一時より小學校に消防幹部會を開催し今春平町に開かれる春期消防檢閲に表彰される人選に就いて協議を行つた

十六錢

安値

大浦販米

石城販賣利用組合大浦倉庫の共同販賣は十五日午後一時より行はれ、四等百十四俵、五等八十三俵、等外卅二俵の合計二百卅四俵を入札に附した結果、四等建値一俵八圓六十錢、五等八圓四十錢、等外八圓二十錢を以つて平町の青木要次郎氏に全部落札されたが前回より十六錢の安値である。

卵相場

下落の對策

石城郡磐崎村字藤原の養鶏組合並に村内の養鶏家は最近卵相場の下落の爲めいづれも對策に悩んで居るが養鶏用食料品は反對に高値となつたので近く組合員及び飼養家が對策の打合せを催す筈

荷馬車を避けんと

幼兒をひく

トラツクの事故

石城郡勿來町赤津常作方運轉手加藤万平(三)は十五日午後二時頃植田町より平町へトラツクに木材を積んで渡邊村字古田地内縣道を進行中前方の荷馬車を避けんとして同字の大竹ヨシ(五)を轢倒し右足に全治二週間の打撲傷を負はした

明日のラジオ

十八日

寄送放台仙

明日の部

後六〇〇 子供の時間

童話「林檎半分」佐々木高明

後七、三〇 「滿蒙新國家祝賀の夕」東京日日新聞社主催 日比谷公會堂より中繼

後九、三〇 奉天より

後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部

前七、三〇 佛教講座「四十二章經」(一)大本山總持寺副監院孤峰燦

前九、一〇 料理献立「精進料理」(その二)朴澤松操學校

前一〇、三〇 家庭講座「彼岸の教耳的意義」竹内道説

後二、〇〇 家庭講座「内

養蠶 組合解散

同業 組合解散

十九日に最後の總會

石城養蠶同業組合は今回解散して新たに養蠶業組合を組織する事になつたので十九日午前十時より團體事務所樓上に於いて最後の通常總會を開き左記の議案を協議する

- △組合解散に關する件
- △組合財産處分に關する件
- △清算事務に關する件
- △縣聯合會解散同意に關する件
- △昭和五年度石城郡養蠶同業組合經費決算並に業務成績報告の件

平職業紹介所報告

求人者の部

- △女中 卅以下 尋卒 月十四五圓(東京市某食糧品問屋)
- △倉働 廿五才 尋卒 給
- △求職の部
- △活版工 廿三才 尋卒 給料面談(平町某)
- △紙箱製造工 廿一才 尋卒 給料面談(東京市某)

自動車 大會

既報今春四月の櫻花時に於いて縣下自動車營業者大會

幕末の剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

【第四席】

神影流の達人秋山要介

仲直りも効なし

要介は小仙波の友吉と所澤の彌太郎との喧嘩の仲裁いたした。そこへ領主大和守の御用を聞いてゐる赤尾村の磯五郎といふ俠客が駆つけて又仲裁いたした。そこへ打揃つて要介が居つた花屋といふ料理屋へきて仲直りをさせることにして要介も其席に列り、先づ血を見ずに済みしは芽度い事と祝して要介は邸に戻る。翌日小仙波の友吉と磯五郎と與に參れ仲裁をしてくれた其禮として縮緬疋酒一駄を贈りました。

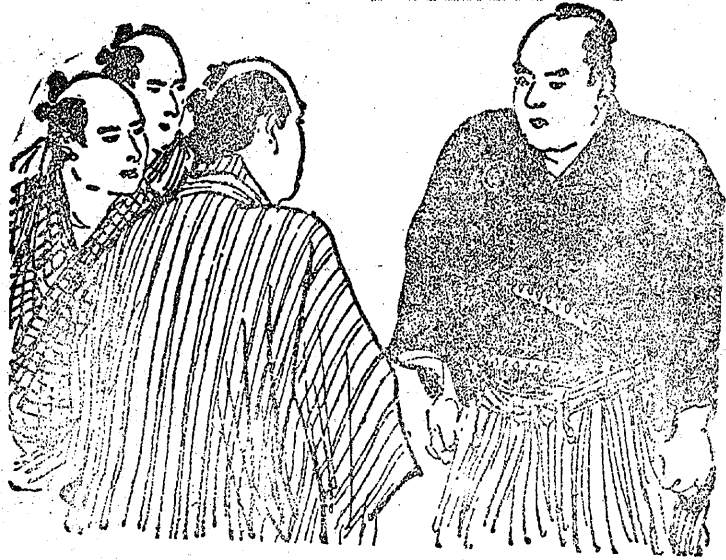
要「氣の毒だナ、このやうな物を貰ふ所存に仲裁した譯では無い、祭禮の當日ではあり、殊に城下に血を流すは最も接祥の事と思ひ、夫で俺が仲に入つたが先づ無難にて治まつて仲裁した甲斐もある」

友「此度は色々先生のお世話になりまして有難い事とございます、之が御縁に幾久しく引立下さいまし」

要「永く交際してくれ俺は我儘であるからそれを心得て交はりくれ、武士と俠客とは其性質は異に致しては居れど何れも義に依つては命

を捨てる、そうすれば履む道は一つである」

友「これは恐れ入りました御歴々様と私共とは身分が違ひます然し男をたてる爲には笑つて白刃を踏むこともございます。玆だけはお武家様には負ぬつもりでござ



「ハ、ア、博ち武士、博ち打ちとは申すが博ち武士といふは聞た事は無いぞ」

彌「ヘエ。博ちを打ちますはその魂は武士のやうそれが博ち武士と申します」

要「成る程巧い事を申すな博ち武士は氣に叶つた、武士は相身互と申す事もあるが是から睦しくいたすであらう」

これより酒宴を開いた、友吉と彌五郎は馳走になつて戻る、是が縁になつて秋山は折々は友吉の許へ遊びに行く。この年の秋の事ではしたが、例の如く秋山は友吉の許へ行くとなつた。

かゝります」

要「なんだ、なぐり込みとは一體それはどんな事をす

○「ヘエ喧嘩を持たんで來ますよ」

要「それは危険な物を持たむナ、それで貴様達は寝た刃を合して居るか」

○「左様でござんす」

要「大勢を斬るには寝た刃を合しては却て切れが止まる、一人二人斬る時は寝た刃を合はさねばならぬか、大勢の敵に渡り合ふには寝た刃を合はせるナ」

○「ヘエ、然うでござんすかね」

要「一體喧嘩の相手は誰れだ」

○「所澤の彌五郎でござんす」

要「それは意外、彌五郎と友吉とは互ひに遺恨は無い筈だ、既に和解をいたしたではないか」

○「ヘエ、此方は仲直りをしました、先方の心は解けません」

要「それは不埒な事だ、コレ、友吉、今この若い者から聞いたが所澤の彌五郎が喧嘩を持たむさうだナ」

友「これは先生、とんだ事がお耳に入りまして、今夜所澤から人数が出るさうでござんす」

要「なんで彌五郎がそのやうな事をす」

友「それにはお話が申す事がございます私が親父が隠居しましたにつき、その繩張を継ぎましたが、彌五郎は私共の繩張に目を着けま

して再三手入れをしましたが、上げる事が出来ません」

要「なんだ上げる事が出来ぬとは」

友「繩張りを取る事がありません」

要「ウン、それで寝つた」

友「そこで今夜は藤倉の觀音堂の境内に盆を布きます」

要「まあ待て、ぼすをしくとは何だ」

友「博ちを開帳いたします」

要「ウン、觀音堂の境内にて賭博お開帳があるか、其寶物とはどんな物を見せる」

友「こいつは困つたナ、博ちを切つつけます」

要「さつつけますとはどんな事だ」

友「これは驚いた」

要「解るやうにいへ」

叱り付けた

時は春!!!

- ◎新入學生の通學に...
- ◎セヒ必要な時計を...

営業種目
時計 眼鏡
指輪 電燈
其他貴金屬

店計時堂寶白

(へ向店服吳橋諸)町川新町平

久全屋商店

磐城セメント會社特約店

セダン揃ひで
貸切専門の
昭和タクシーへ

電話 三四三三

磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷は久の生命なり

お様子方入學進級の御用意

學生日帽。靴

ヤルツ

○四一電

ルセドンラ

總革製

七十八錢
九十錢
一圓卅錢
四圓廿錢